

新年明けましておめでとうございます。

令和六年の新春にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

村民の皆様には、平素から村政の各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

令和三年の村長就任後、早いもので三度目の新年を迎えますが、引き続き、村民との対話を重視し、村民が主役の村政運営実現と推進に向かって最善を尽くして参ります。

昨年は、各地区での円卓会議にたくさんのご参加をいただき、防災に関することや生活全般に関わることなど、普段の生活の中で感じている、貴重なご意見やご要望をいただきました。

また、テーマを設け、農業団体や若手漁師を中心に意見交換を行い、それぞれの視点からのご提案や思いを伺うことができました。そして、村の未来を担う子どもたちの意見を村政に反映させることを目的に、小学生を対象とした円卓会議の開催に加え、三回目となる「中学生議会」を開催し、子ども達が普段の生活で感じている、教育設備等の充実や地域の活性化についてなど、様々なご提案をいただきました。

さらに、会場を東京に移して初めてとなる「出張円卓会議」を東京で開催し、外からの目線ならではの意見を伺うことができました。

いずれも、私が最も大切にしている施策でありますので、来年度以降も継続し開催するとともに、貴重なご意見やご提案を、今後の村政運営の参考にさせていただくとともに、実現に向けて努力して参りたいと考えております。

また、八月には、村内の企業や事業所に勤務する若手職員等が中心となり実行委員会を組織し企画した、住民参加型イベント「東通ドン！とボン盆フェスタ」では、「花火打上」や「コスプレ盆踊りコンテスト」など様々なイベントが開催されました。

今後も、若者の自由な発想と行動力で、子どもからお年寄りまで、広く全世代が参加し、楽しめるイベントを創り上げていただきたく、

村としても全力で支援して参りたいと考えております。

ところで、昨年の我が村の第一次産業は、農業は、「水稻」が、記録的な猛暑の影響で品質低下が心配されたものの、平年並みの収穫となり、畑作の「そば」は雨の影響による倒伏等があり、平年を下回る作柄となり、「大豆」は、播種時の天候にも恵まれ平年以上の収穫となりました。

一方、漁業においては、村の主力魚種であるスルメイカ漁並びにサケ漁が壊滅的な不漁に見舞われており、過去に例のない大不漁だった一昨年と比較しても、非常に厳しい状況にあります。

このような水産資源の減少による漁獲量の減少に加え、燃油や資材の高騰など、漁業経営は依然として厳しい状況が続いております。村といたしましては、主力産業である漁業の復活に向けて、獲る漁業から、つくり育てる漁業への転換を加速させるべく、事業を展開して参りますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、我が村は、原子力発電所との共生をもつて、各種基盤整備と地域経済の発展を目指し、各施策を進めて参りました。

しかしながら、今年で、東通原子力発電所東北電力一号機の運転停止そして東京電力一号機の本格工事中断から十三年が経過しようとしています。

両事業者に対して、私は村長就任以来一貫して、それぞれ再稼働と工事再開に至るまでの具体的な道筋、ロードマップを示し村民に対して公表するよう求めてきましたが、未だに具体的な道筋は示されておりません。

このような状況の中、昨年十月には、村議会とともに、国及び両事業者に対し、「東北電力一号機の早期の再稼働」、「東京電力一号機の早期の工事再開」、「立地地域への影響の緩和」などの要望書を提出するとともに、改めて、村民の悲痛な声と村の現状について直接訴え、責任のある対応をいただくよう強く要望しました。

国策である原子力政策は、国、事業者、立地地域の信頼関係なくして進むものではなく、特に、村民の皆様が、原子力との共生を持

続的に実感していただけることが重要であるため、今後も、国、両事業者に対し、強く訴え続けて参りますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

このように東通村は、少子化、人口減少、長引く漁業の不振、地域経済の低迷等々の課題が山積しており、この現状を打破するため、「未来へ挑戦する東通村へ」のスローガンのもと、各種政策を展開して参ります。

村民が主役の村政運営実現に向けて、「円卓会議」や「こども議会」等、村民の声を村政に反映させるための施策を柱に、未来をつくる「ひとづくり」、未来を牽引する「しごとづくり」、一人ひとりに寄り添う「くらしづくり」、そして村民のいのちを守る「むらづくり」を実施するべく、施策を展開して参りますので、引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

村民の皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます、新年に当たってのご挨拶と致します。